

キーボードとマウスの連携操作

通常ワープロやテキストエディタにより文字を入力する場合、両手を使ってキーボードを操作します。両手を用いることで1本指に比べて最高10倍の速度、1/10の負担、そして左右の移動量が少なくなるという利点があります。また人間工学的には左右のバランスによる姿勢の乱れも少なくなったり、神経が退化しがちな薬指/小指を動かすことで脳も活性化されます。

ところがCADやドロー系ソフトはマウス(右手)に負荷が集中します。早く入力しようとするためマウスクリックやドラッグを高頻度に操作する必要があります。また1つの操作を行うのに、マウスのクリックが4~5回も必要になる様なソフトの場合、さらに条件が悪くなります。

最近、マウスの移動量を減らす為に、クロックメニューやゼスチャーコマンドを採用したソフトをよく見かけますが、移動量が減っただけで基本的に右手の負荷が激減するわけではありません。

本ソフトではポップアップウインドウなどが表示されていても有効なショートカットキーを設け、操作は常に両手でを行う事を念頭においています。(もちろんマウスだけでも操作可能ですが。)

大事なのは健康的に入力を行う事です。この作業に苦痛があってはなりません。

作画時のキーボードポジション

2点入力時：直線作画，3点以上入力時：折れ線作画
 2点入力時：長方形作画，3点以上入力時：多角形作画
 対角を全角サイズとするFIT文字列作画

ポイント入力を1点戻す

入力をキャンセル

Esc	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11	F12	Prs	ScI	Pau						
半	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	-	^	¥	BS	Ins	Hom	Pup	NuI	/	*	-
Tab	Q	W	E	R	T	Y	U	I	O	P	@	[Enter	Del	End	Pdn		7	8	9	+
CapsLk	A	S	D	F	G	H	J	K	L	;	:]						4	5	6	
Shift	Z	X	C	V	B	N	M	<	>	/	_	Shift						1	2	3	Ent
Ctrl	Alt	無変					変換	ひ	Alt			Ctrl						0	.		

押しながらのポイント入力により、方眼紙を1/2に評価する

押しながらのポイント入力により、方眼紙を無視する

続けて同じ要素を作図する場合、最後のポイントを押しながら入力する

- 1点目左クリック 2点目左クリック F3キー で直線作画
- 1点目左クリック 2点目左クリック F4キー でポイントを対角とする長方形作画

(次ページに続く)

編集時のキーボードポジション

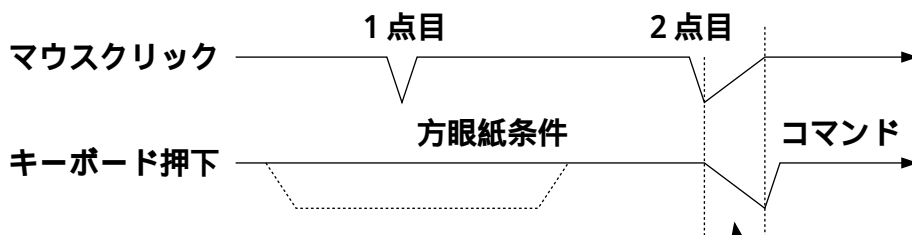


押しながら左クリックにより、要素を選択し編集状態にする。
移動および回転中は、複写および回転複写となります

- | | | |
|-----------|-----------|------------------------|
| 1 点目左クリック | 2 点目左クリック | F 2 キー で範囲選択 |
| 1 点目左クリック | 2 点目左クリック | Ctrl+Ins で範囲選択後コピー実行 |
| 1 点目左クリック | 2 点目左クリック | Shift+Del で範囲選択後切り取り実行 |

マウスとキーボードのタイミングについて

作画および編集の操作パターンは色々ありますが、一番多いのは、左クリックにより続けて2点入力した後、キーボード押下によりコマンドを決定する方法です。より速い作画を追及する場合、右手(マウス)と左手(キーボード)のタイミングを適切に合わせる事が重要です。2点目入力時のマウスクリックを離す動作(指が上に上がる)と同期してキーボードを押すイメージがよいと思います。



この動作を
ゆったり行う
よう意識する

左手 ↓ ↑ 右手

また、本ソフトでは操作した後、画面が更新されるのが遅くタイムラグがありますが、これはバックグラウンドタスクにて画面更新を行っている為です。よって画面更新を待たないで、次の操作を行っても支障はありません。